上智大学経済学部　同窓会会報　エコノミアン
ECONOMYAN VOL. 66
◆発行日／令和6年4月25日　◆発行／経鷲会 千代田区紀尾井町7-1 上智ソフィア会内 ◆編集／広報委員会　編集長 大武宏至（1978経・営）
www.sophiakai.jp/blog/economyan/

時代への適応と変化しないもの

経営学科長　細萱 伸子

2023年より経営学科長に就任した細萱伸子です。今回は、経営学科における学生の育成状況についてご紹介いたします。

近年、急速なIoTの進展やDXの推進、そしてAIの活用が進む中で、データサイエンスのスキルが社会で求められるようになっています。上智大学全体としても、経営学科としても、これらのトレンドに迅速に対応することは重要な課題の一部となっています。上智大学全体としては、2023年4月に応用データサイエンス学位プログラム（修士課程）を新設しました。この流れに経済学部は推進役の一翼を担い、経済学科や経営学科の教員も多数関わり、企画運営や科目提供などで貢献しています。

学部教育の理念を表現したものが、ディプロマポリシー(DP)です。経済学部では、学部、両学科がそれぞれ、DPを作成、公開しております。経営学科のディプロマポリシーは5つの項目からなりますが、より大きく集約すると、「経営学の理念的知識の習得」「グローバルなコミュニケーション能力と発信力の涵養」「適切な情報収集と分析に基づく意思決定力の醸成」となります。

経営学科の伝統的な講義科目は「経営学の理論的知識」を支えています。これは学科のアイデンティティとして欠かせないものです。また近年のSPSF開講や英語科目の強化によって、学生へより多くの機会が提供されるようになった「英語による授業参加」は「グローバルなコミュニケーション能力」の涵養に役立ちます。これまでの学部・学科の努力により、こうした学習環境が整ってきましたことは、この欄でも前任の学部長、学科長がご紹介してきたとおりです。現在は、第三の課題「適切な情報収集と分析に基づく意思決定力」に向けて、データサイエンス科目の強化に取り組んでいます。

入口の入学試験では、数学の入試を実施し、受験生は英語と数学のどちらかを選択できるようになっています。また、入学後は、英語・数学の受験科目選択にかかわらず、統計学が導入科目の一部として全員に必修化され、統計関連科目の充実も図られています。さらに、より最近では、ビジネスエコノミクスの開講やプログラミングスキルを必要とする科目の新設など、学生が経営学的な課題にデータサイエンスのスキルを活用するための準備が進められています。ビジネスエコノミクス関連の科目開発は、データサイエンスの領域で先行して強化を進めてきた経済学科との連携で行われる部分も大きいです。しかしながら、具体的な授業内容に関しては、経営学科の学生は経済学科の学生とは異なり、経営体である企業単位の意思決定や、経営組織という環境に影響を受けながら意思決定する個人の状況を分析することを目標に学習します。経済、経営が連携しつつ、各々の特徴を際立たせていくという学部の特徴が、学生のカリキュラム開発に関しても発揮され、それぞれの学科の人材育成目標に向けて進んでいます。

このように、経営学科のカリキュラムは、経営学理論とデータサイエンスのスキルを結びつけ、グローバル化や複雑化する経営環境に対応するための能力を育成しています。つまり、「英語能力に自信があり、経営学の理論背景に基づいて、現場のデータを適切に分析し、予測と意思決定ができる、経営人材」です。これが経営学科が目指す一つの人材像といってもよいでしょう。

こうして言語化してみれば、自分が学生だった頃の優秀な人材のモデルとあまり変わらないように思えます。ただ、英語、経営学、データ、それぞれの内容がより詳細で厳密に、必要なレベル感も向上しています。そんな環境の中では、学生が在学中から、日常のカリキュラムの中でそうしたトレーニングを受けていくことが必要になると考えています。さらにもう一段先を見れば、今後は「発信力」の内容を作り出すための、イノベーションやアントレプレナーシップなどもより一層強化していかなくてはならないでしょう。私たちは王道を行きつつも、常に環境に合わせて進化していかなければならないと改めて感じております。

本号では、先日行われました経鷲会奨学金の受賞者の紹介も掲載されると伺っております。成績優秀者としての受賞者に加えて、個々の学外活動での活躍に対して奨学金を授与された受賞者たちもおりますが、いずれも、上述のようなディプロマポリシーを体現する活躍をしてくれています。経鷲会の奨学金を通じて、学生の成長を皆様にご覧いただけることを大変ありがたく存じます。常日頃、学生の活動を見守り、ご支援をいただきますことに改めて御礼申し上げますとともに、今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

海外ソフィア会ハノイ大会 2024「Reconnecting in Vietnam」を９月に開催します

戸川　清（1971 年 経・経）

海外に在住するソフィアンとの親睦と、ベトナムの文化や芸能を親しく学び楽しむ事を目的に、今年はベトナムのハノイで９月に海外ソフィア会ハノイ大会を開催します。この大会は、アジア各地や欧米で活動する日本人ソフィアンのみならず、上智大学に留学した経験を持つアジアのソフィアンと、日本から訪れるソフィアン、そして上智大学の曄道（てるみち）佳明学長と上智学院のアガスティン・サリ理事長をはじめとする上智大学関係者とともに一堂に会して親睦を深める機会です。

ベトナムと言えばフランスによる植民地としての統治や米国とのベトナム戦争など、暗いイメージを持たれがちですが、ホー・チ・ミンによって1945 年に独立を果たし、1976 年に南北統一が実現しました。ベトナムの正式名称は「ベトナム社会主義共和国」、英語表記は “Socialist Republic of Viet Nam” で、社会主義国ですが、最近では信教の自由も認められ、キリスト教信者も数多く存在しています。南シナ海の西側に位置し、面積はおよそ 33 万平方キロメートルで、日本の約 0.88 倍です。人口はおよそ 9,819 万人で（2022 年）、南北に長い国土です。首都ハノイ市がある北部では中国やラオスとの国境に、ホーチミン市のある南部ではカンボジアとの国境にも面し、雨季と乾季を持つ温暖な気候が特徴です。そして何と言ってもベトナム料理は日本人にも親しみやすく美味しいので日本でも人気があります。また、2000 年以降は勤勉なベトナムの国民性を元とする労働力を求めて、日本企業の現地への進出も盛んに行われています。

振り返えれば、2013 年の上智大学創立 100 周年の節目に、日本と近隣アジア各国のソフィア会との交流によって、海外で活動するソフィアンとの相互理解と連携を深める事を目的に、第 1 回アジア大会を香港で、翌 2014 年に第 2 回大会を上海で、2017 年には第 3 回大会をカンボジアのシェムリアップで、2019 年にはインドネシアのジャカルタで開催しました。2020 年からはコロナ禍の影響で海外への渡航が制限されてしまったこともあり、対面での大会開催は休止せざるを得ず、2021 年以降は、ソフィア会の国際委員会が企画して ZOOM によるオンラインでのカジュアルな情報共有会「ソフィア・グローバル・カフェ」を、北米、中南米、欧州、アジア・オセアニアの各ブロックにあるソフィア会と結んで実施してきました。

昨年は国内の地域大会が鹿児島で復活し、今年はいよいよ海外での大会です。ハノイ大会では「Reconnecting in Vietnam」をテーマにソフィアン相互の親睦とネットワーキングを図る機会です。具体的なスケジュールは、2024 年 9 月 14 日（土）から 16 日（月）がコアとなる期間で、ハノイ大会は 9 月 15 日（日）の午後に、シェラトン・ホテル・ハノイで開催されます。参加申し込み等、詳細は 5 月に発行される栞をご参照ください。より多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

（ソフィア会常任委員、
募金委員長兼国際委員会副委員長）

左上：ハノイ大教会
左下：ハロン湾クルーズ
右上：タンロン遺跡
右下：ベトナム民族衣装

地域ソフィア会全国大会 2023 鹿児島大会

吉冨秀介（1987 年 経・営）

「地域ソフィア会全国大会」の一回目は2009年に北九州で開催されました。この「全国大会」は、九州にある8つのソフィア会が持ち周りで開く「九州ソフィア会」を参考にしたそうです。2009年は北九州が当番でしたので「九州で開催される全国大会」を担当されました。

鹿児島で開催されることが決まるまで

2020年の夏、「2021年の全国大会は『九州』に2度目のお鉢が回るかも」との情報が入ります。当年の九州ソフィア会は宮崎、翌2021年は福岡の番で、鹿児島は翌々年でしたので「全国大会は福岡」と高を括っていました。しかし、ご察しの通り2020年は、あらゆる集まりが中止や延期となり、今後の全国大会のスケジュールが流動的になり、九州のどこが当番になるのかが不透明になってきました。

少し端折りまして結局、2020年に予定されていた松本での全国大会は2022年に開かれ、同年の「九州ソフィア会」は福岡で開催されました。その結果2023年の九州での全国大会は「九州ソフィア会」の当番である鹿児島ソフィア会が担うことになったのです。

全国大会への取り組み

さて、鹿児島ソフィア会の陣容は名簿150名、会合参加30名余の規模感です。役があるのは会長（筆者・佐藤ゼミ）と事務局長（野口裕幸さん（1987経・営卒）・佐藤ゼミ））でした。そこで若手の2人（山之内元治さん（2001理・電卒）、有村格之進さん（2010経・経卒））を引き入れ実行委員会を立ち上げました。開催日の2023年9月9日に向けて、同年の2月からは有志を募り毎月第四土曜日を実行委員会の開催日と決めました。毎回10人程度集まり、忖度も遠慮もない喧々諤々の議論ができましたので、大会の成功を確信した次第です。

ソフィア会における全国大会の担当は「組織委員会」であり、2022年の信州大会当時の委員長は佐藤ゼミの先輩でいらっしゃる上原隆一さん（1976経・営卒）でした。上原先輩には信州大会以来、鹿児島大会へのアドバイスも（お酒も）沢山頂き、前述の通り鹿児島の事務局長野口さんも佐藤ゼミですから「上智の縁は一生、ゼミの縁は永遠」という恩師佐藤眞一先生の教えを噛みしめながら準備を進めることができました。

ところで、記念講演の講師は私の個人的な思い入れで推した方が選ばれました。

東和浩様（1980経・経卒）は高校の先輩でもあり、りそな銀行の頭取になられた頃から「いつか鹿児島に講師としてお招きしたい」と考えていたのです。

そして、講演の依頼を申し上げたのと同時期にソフィア会の副会長就任が打診されていたようで、講師のプロフィールに「副会長」の肩書きが加わることになりました。講演は大好評で、東先輩には感謝の言葉しかありません。

最後に

大会の成功には事前に鹿児島に下見にいらっしゃるなど組織委員会や事務局の皆様のご尽力があり、ソフィア会全体を見渡しても経鷲会のメンバーが多くいらっしゃることから、とても心強く、安心して取り組むことができました。関係する全ての皆様に感謝を申し上げ、筆を置きたいと思います。

（鹿児島ソフィア会会長）

全国大会2023鹿児島講演会

全国大会2023鹿児島懇親会

小豆島のカフェ

山崎和穂（1998 年 比較文化学部）

こんにちは。私は、現在香川県の小豆島で香港人の夫とカフェを経営しています。週に 4 日、午後 2 時から6時までの、とてものんびりとしたカフェです。

私は、2020 年秋に小豆島に移住するまでは、13 年間香港で生活していました。あまり大学関連の行事に参加することもなかったし、卒業後はほとんど大学とは縁がなかったのですが、香港で初めてソフィア会に参加して、同窓生とのつながりを持ちました。

同じ大学に通った、というだけですぐに打ち解けてしまえるのは心地良く不思議です。通った時期も学部も違うけれども、すぐにお互いを信頼し打ち解けることが出来ます。先輩方の様々な人生をお聞きするのは刺激的でした。また、自分より若い女性達が駐在員として独り香港に送り込まれるのに感嘆しました。東京では自分の勤め先か趣味を通して知り合った人達としか交流がなかったので、様々な世界で活躍する方々と知り合えるのは新鮮でした。

私は、香港に移住してしばらくして別居、離婚。そして香港で仕事を探すこととなり、少しだけ大変な思いもしたのですが、その時期に支えてくださったのはやはりソフィア会で知り合った先輩や友人でした。（そもそも、その仕事に就けたきっかけも・・でした。）そして、今の夫と小豆島に移住しようかと決めた矢先、現在我が家とカフェがある土地をスムーズに見つけることが出来たのも、とある先輩が下さったご縁のおかげでした。移住した後もソフィアンの先輩方や後輩の方達が時折遊びに来てくださいます。大学関連の活動はしていない私ですが、この不思議な結びつきにとても感謝しています。

香港ではサラリーマンだった夫と私ですが、小豆島での新しい人生ではやりたいことがいくつかありました。今その夢を、自分達の小さなカフェで実現しようと毎日楽しく暮らしています。夫は絵を描くのが大好き、私はカリグラフィーが趣味・・なので、カフェをギャラリーのように使っています。音楽を楽しみたい、お酒を楽しみたい・・という理由から、毎月お客様が生の音楽を聴きながら会話を楽しめるサロンのような事もしています。その時は夫のもう一つの夢が叶う時！バーテンダーになりたかった夫が、お客様にカクテルを作ります。また、規模はとても小さいですが、ピアノやソプラノの演奏会も数回開きました。瀬戸内の穏やかな海を眺めながら、若い頃から漠然と「こんなことやれたらいいなあ、楽しいだろうなあ～」と夢見ていたことを少しずつ実現できている現在の暮らしが本当に幸せで、感謝の気持ちでいっぱいです。島の地元の方達も、私達の様に移住してきた方達も、みなさん気さくで優しい方ばかり。島なので、どこに行っても大抵知り合いにばったり会い、東京や香港にいた頃よりも、色々な方との交際を楽しんでいます。カフェでも友達の輪がどんどん広がります。

私は甘いものが大好きで、カフェでは家庭的でシンプルな焼き菓子を中心に色々お出ししています。今までは支えていただいたり助けていただくことが多かった人生ですが、これからは少しでも人に力を貸せる人間になりたいと思います。特に、小豆島にはアートが大好きな人、アーティストがたくさんいます。島をアートで盛り上げていく事に力を貸すことが出来たら・・・という気持ちが最近あります。

どうぞ小豆島にお越しになる機会がありましたら私達のカフェ、Daniel's にお立ち寄りください。島では都会とは全然違う時間の流れを感じる事ができます。是非一緒にのんびりとした幸せなひとときを過ごしていただければと思います。

Daniel's Cafe and Lounge
Instagram: daniels.shodoshima
Faceook: Daniel's Cafe and Lounge 小豆島

山崎和穂　比較文化学部　1998卒
（右から３人目が本人）

門をくぐれば 18 歳、元会社員の音大生

蓮田望美（2015 年 経・営）

2015年度卒の蓮田望美と申します。上智大学では小阪玄次郎先生のゼミで学び、卒業後はディベロッパーとして働いていました。最初は財務部に配属されたため、経営学科で学んだことを存分に活かすことができ、忙しくもそれなりに充実した日々を送っていました。しかし、20代後半にさしかかった頃、自身の生き方に対して疑問をもち、本当にやりたいことに挑戦することにしました。子どもの頃から細々と続けていた「音楽」です。やる気のあるうちに洗足学園音楽大学に入学志願書を出し、どうにか合格。上智大学で所属していたソフィア・ギター・アンサンブルで編曲を行っていたこともあり、作曲を専攻することにしました。

入学後、私にはとあるミッションがありました。ひとまわり年下の学生と交友関係を築くことです。あろうことか、同級生から年齢を訊かれたとき、自分は18歳なのだと答えてしまい、それから18歳らしくふるまう生活が始まりました。言葉遣いはもちろんのこと、Suicaを1,000円ずつチャージしてみたり、人前でクレジットカードを使わなかったり・・・。ところが、きたる私の誕生日に「ラストティーン記念撮影会」が開催され、いたたまれなくなった私はついに生年月日を公開してしまいました。しかし、このコメディーのような時期のおかげで、同級生は抵抗なくタメ口で話しかけてくれるようになり、今では長期休みに旅行に出かけるほどの関係を築くことができました。

前置きはここまでにして、私が音楽大学で何を学び、どんな作品を書いているかについてふれます。作曲専攻の学生は、まず音楽理論をみっちり学び、その上で作曲に取り組みます。ちなみに、一般大学と大きく異なるのは、マンツーマンレッスンが主だということです。自身の作曲した作品を、週に一度担当の先生に添削してもらいます。作曲は私にとって地道な作業で、よく徹夜もします。なかなか骨が折れますが、自身の作った作品を学生に演奏してもらうときの感動は、たとえようもありません。特に、自身が編曲したオーケストラ作品がホールで演奏されたときは涙が出そうになったほどです。

ところで、私はこれまで多くの合唱曲を書いてきました。将来、自身の合唱作品を世に送り出すことが夢のひとつです。合唱作品を書く前のステップとして、入学後はしばらく、歌曲（歌い手1人、ピアノ伴奏付）を書いていました。合唱曲や歌曲の面白いところは、曲にしたい詩を選び、言葉とじっくり向き合って、詩の構成や言葉のリズムを壊さないように曲を作り上げていく過程です。ある意味、縛りの中で曲を書いているとも言えますが、制約がある状態での作曲は難しくも奥深いものです。また、曲を書けば書くほど詩に興味を持つようになり、書店をみかければ詩集コーナーに必ず寄るようにしています。

最後に、私が最も大切にしている自作品を紹介させていただきたいと思います。曽祖父である蓮田善明の著書「陣中日記」の詩を用いて作曲した歌曲です。曾祖父は、作家の三島由紀夫さんの師として一部の方には知られているようですが、メジャーな文学者といえるほど有名ではありません。子孫である私も曾祖父についてよく知らなかったのですが、いろんな詩を読むようになってから彼の作品が気になり始め、その詩で歌曲を作曲するにいたりました。「陣中日記」はタイトルこそ猛々しいのですが、実は美しく、選び抜かれた言葉による詩が載っています。そこから3つ詩を選んで作曲し、才能あふれる若き演奏家に演奏してもらいました。

曽祖父は41歳でこの世を去ったにも関わらず、多くの著書を残しました。彼に負けないくらいの多くの曲を書くのが私の目標です。そして、自身の曲を通して彼の文学作品に1人でも多くの方がふれてくださったら・・・という思いを胸に、これからも作曲に取り組んでいきたいと思います。

YouTubeで蓮田望美と検索してください。
私の作曲した曲の動画をご覧になることができます。

しゅうかつ

西岡　靖（1981年 経・営）

青春ソング、思い浮かべると、「神田川」、「学生街の喫茶店」、「さらば青春」、「青春の影」、「太陽がくれた季節」、「我が良き友よ」、「いちご白書をもう一度」、「あの日にかえりたい」、「青春時代」など当時では知らない人がいないほどの名曲が多いことに気づく。あるいは、青春時代に好きだった歌手や芸能人を聞いたからこそ青春の思い出を呼び起こしてくれる曲や歌手もいる。

そもそも、いつからいつまでを青春時代というのだろうか。

青春時代とは、夢を抱き若く元気な時代と意味付けられているようである。もちろん、いくつになっても若々しく夢を抱き、活力に溢れる人がいるとは思うが、青春していると呼ぶには痛々しい・・・失礼、何歳になっても青春できるのは羨ましい。

さて、具体的な年齢については様々な定義があり、答えはひとつではないようだ。一般的には13歳から20歳くらいまでを指すことが多いのかもしれない。となると、中学入学から法律上の成人（今は違うが）になるまでということになる。自分自身を振り返ったとき、20歳になって成人し、青春が終わったと感じたことはなかったような気がする。では何時が青春時代の終わりなのか。私の勝手な思いだが、「しゅうかつ＝就職活動」が青春時代の終わりを告げるときではないだろうか。会社に就職する者、家業を継ぐ者、資格取得を目指す者、公務員試験を受ける者、就職しない者、選択肢は違うものの、みんな「しゅうかつ」であり、ある種同じ空間の中で同じ時間を過ごした同年代の仲間と離れ、人生のひとつの岐路となる瞬間だろう。共に過ごしている空間と時間ほどその時は意識できていなくて、離れた後でそれがどれだけ貴重なものだったのかを感じる。

自分が若い頃の比較的歳の多い大人が「この歳になると病気と薬の話ばかりになる」とか「薬の数が多いのが自慢になる」とか、そんなことを言っていたのを思い出す。確かにそのとおりだ。いつまでも元気ではないし、老いには勝てない。最近、抵抗するよりむしろ受け入れる、人生の終わりに向けた「しゅうかつ＝終活」を耳にすることが多くなった。

一般的に、人生最後をより良く迎えるために自身の周辺整理をすることとされていると思うが、私は、終活の中に加えたいものが一つある。

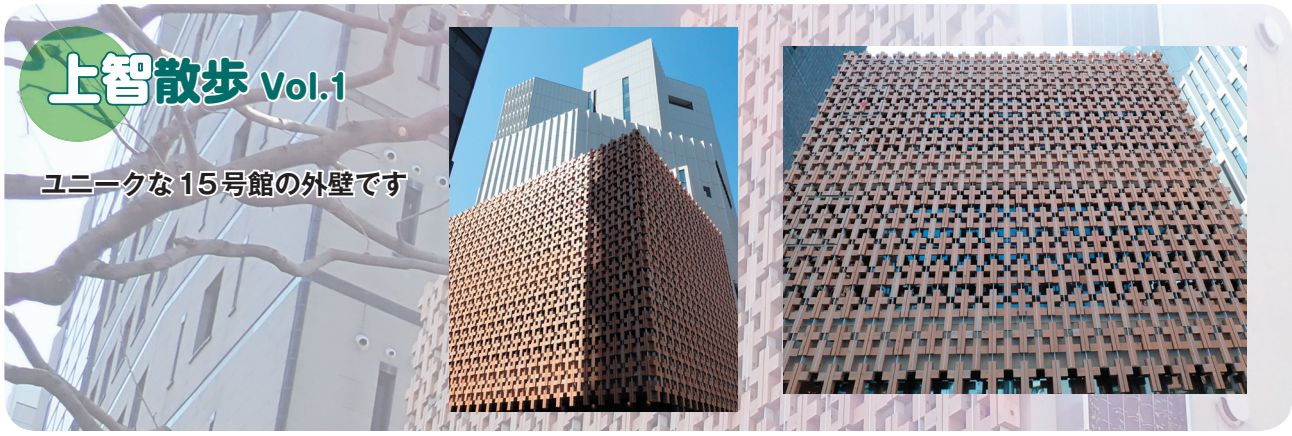
それは、青春時代を振り返り、共に過ごした仲間と再会し、思い出を振り返り、思い出の整理をすることである。青春時代の思い出は案外不確かで、記憶違いもあり、仲間と一緒に振り返りながら思い出を確認したとき、二度楽しい想いをすることができる。

仲間と共に過ごした青春時代が「しゅうかつ＝就活」で一旦終わり、長い年月を経て「しゅうかつ＝終活」で再開し、青春時代を振り返りながらもう一度青春時代が楽しめる、この二つの「しゅうかつ」は、この年齢になった我々にしか出来ないことである。

今私たちが迎えている「しゅうかつ」は、青春時代のように終わりを告げるものではなく、生きている限りは、無期限の「しゅうかつ」となる。

仲間と再会できる日を、そして一緒に「しゅうかつ」できる日が楽しみで、今はそれが私の元気の源になっている。

（元 広島県大竹市消防本部消防長）



経鷲会奨学生からの礼状

（学年・礼状の内容は、2024 年 2 月時点のものです。）

小須田莉奈（経・営 3 年）

この度は、経済学部・経鷲会奨学基金に奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。学業優秀賞の受賞など、日頃の学業への取り組みを評価していただけたこと、大変嬉しく思っております。

上智大学へは「積極的に学び、高成績を収めること」を目標として入学いたしましたが、当時はオンライン講義がメインであり、周囲の様子が分からぬまま勉強しておりました。対面講義が増え始めた 2 年次には、幸運にも切磋琢磨しあう友人を得ることができ、より一層力を入れて講義・課題・復習に励んだ結果、今年度は目標としていた学業優秀賞を受賞することができました。更に、これまでの取り組みが評価され、奨学生に推薦していただけたことは大変光栄であり、身の引き締まる思いがいたします。社会に貢献できる人材となるため、今後も奨学生の名に恥じぬよう学び続けてまいります。

最後になりますが、ご支援いただいた経鷲会の皆様に重ねて御礼申し上げます。

小久保慶一郎（経・経 3 年）

この度は上智大学経鷲会研究奨励金奨学生に採用いただき、ありがとうございます。私は蓬田守弘教授のゼミの下で国際経済学を学んでいます。その中で、アニメや漫画といった日本が誇る文化に関わる財の貿易が日本の経済に与える影響について研究を行いました。研究成果は関東の大学のゼミが集まるインターゼミの中で発表し、ある程度の形にはできましたが、ゼミでの学習を通じて「自分はこう思う」という自分起点の学習意識が欠けていることを実感しました。これまでの学習は、授業の中で与えられる知識や内容を試験の中で書くだけの、いわば「受け身」のものが多かったと思います。しかし、ゼミのような学習の場で求められるのは「自分の中で何が問題意識としてあるか、解決するためにはどんなデータや知識が必要か」といったことを自分起点で考える主体的な姿勢です。こうした学びの姿勢がいかに大切であるか、大学での学業を通じて実感しました。今後も、社会に出ていく中では、主体的な学びの姿を大切に、精進していきたいと思います。

田代菜月（経・経 3 年）

この度は、経鷲会奨学基金に採択いただき、誠にありがとうございます。

私は、高校 1 年生の時に上智大学合格という目標を掲げ、勉学により力を入れるようになり、以来、「毎日必ず少しでも勉強時間をとる」ということをモットーとして、日々努力を続けてまいりました。大学入学後、やはり初めての経済学は大変難しく、困難な場面が多かったと記憶しています。その中で、積極的な自学習はもちろん、時には友人と教え合うなど、共に学習に取り組むことで、切磋琢磨しながらここまで乗り越えてくることができました。大切な友人とご指導くださった先生方に心から感謝しております。また、自分なりに積み重ねてきた努力をこのような形で評価していただけたこと、大変光栄に思います。大学生活も残すところあと一年となりましたが、これまで培ってきた「弛まぬ努力を継続できる力」を活かし、諸先輩方のように、社会に貢献できるかっこいい女性になれるよう精進してまいります。最後になりましたが、このような貴重な機会をいただけたこと、重ねて御礼申し上げます。

吉野礼奈（経・営 3年）

この度は経鷲会奨学生に選出していただき、誠にありがとうございます。日々の学習の成果が認められ、大変光栄に思います。

私は父の転勤で中学・高校の6年間をオランダで過ごし、インターナショナルスクールに通いました。日本に帰国後は、身に付けた英語力を維持したいと考えていました。念願の上智大学に入学後、経営学英語特修プログラムに登録し、マーケティングや会計等の知識を英語でも深めることができています。

また、大学3年生からは、小阪玄次郎教授の製品開発論ゼミに所属しています。食品会社と提携し、おつまみを若者にも楽しんでもらえるよう商品開発やPR策を考案しました。活動を通して、提案するアイデアが消費者のニーズに応えているかと同時に、企業が取り組むべき意義も満たしているかが大切だと学びました。

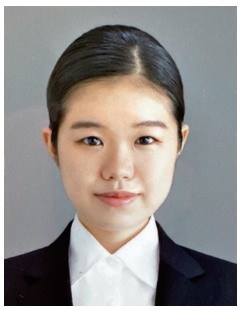
大学生活もあと一年となりました。引き続き勉学に励み、社会に出てからも自己研鑽に努めたいと思います。経鷲会の皆様方には、どうか今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

半田樹梨（経・営 3年）

この度は2023年度経鷲会研究奨励金に奨学生としてご選定いただき、ありがとうございます。私は大学に入学する際、経営学という興味のある領域を専攻できる喜びから、これまで以上に主体性を持って学習したいと考えておりました。そのため、理論や概念を知る中で、講義内で登場した事例に加え、より身近な事例を自ら考えて“自分事化”しながら学ぶことに努めました。今振り返ると、自分事として捉えることで定着度が高まり、学んだ理論や概念を他の授業でもリンクさせることができ、それが今回のような光栄な出来事につながったのだと思います。また、“自分の興味を貫く”ということを目標に掲げ、Gonzaga大学との短期共同学習プログラムに挑戦しました。英語は不安でしたが、それを理由に自分の想いに蓋をしないでよかったと感じています。これらの経験が自信へとつながり、現在は長期インターンに参加し、特に関心を持つ消費者心理を実際のビジネスの場で学んでいます。

残りの大学生活も短くなってしまいましたが、今後も自分らしさを大切にしながら過ごしたいです。

矢島咲来（経・経 3年）



この度は、奨学金に採択いただき心より感謝申し上げます。

上智大学では、学びに体系を与えることを意識して学問に励んでまいりました。具体的には、統計的解析、英語運用の取得に関心を持ち、他学部関連科目の受講等で学びを深め、学業成績にて成果を挙げることができました。また、2023年秋学期からはシアトル大学にて交換留学の機会をいただきました。関心のある定量分析を用いた授業でのグループワーク、現地でのボランティア、クラブの役員活動に励むことで、身近な「他者」と助け合い共通の目的を達成するという3年前の大学入学時から目標にしていたことを実践的に会得することができています。今後も経鷲会の理念に基づき、上智大学および留学先で得た知恵、場、人との出会いを活かし、帰国後は協調性を持った人材として経済学部、そして社会課題に貢献する所存です。重ねまして、経鷲会奨学金を賜りましたことに御礼申し上げます。

高橋まゆ（経・営 3年）

このたび奨学金に採用していただきまして、誠にありがとうございます。

私はこれまで経営学科で、多様な分野を学んできました。1年生の頃には会計学の勉強に注力し、簿記2級を取得しました。昨年からはマーケティングゼミに所属し、「趣味とSNSの利用状況」というテーマで班での研究活動に取り組んでいます。経営学科では必修科目が少なく自由が効く分、「何を学びたいか」を常に主体的に考える必要があります。そのような環境下で私は、自身の知っている世界を広げたいという思いを持ち、馴染みのない講義でも積極的に受講することを心がけています。

年明け以降は勉学に加えて就職活動も始まり、より一層忙しい日々を送っております。しかし、奨学金のご支援のおかげで少し余裕ができ、今までと同様に勉強の時間を確保できております。これからも、社会の立派な一員となれるよう、勉学も就職活動も熱心に取り組みたいと思います。

改めて、奨学金に採用していただき、ありがとうございます。

2024年2月1日　授与式後の集合写真

経鷲会と学部学科同窓会連絡会について

ソフィア会の主導による、第8回学部学科同窓会連絡会が3月15日にオンラインで開催されました。現在、6学部（経済、法、理工、神、国際教養、総合グローバル）16学科（文学各科、外国語各科、社福、聖母他）1大学院（地球環境学研究）合計23団体が所属しています。どの同窓会も、参加者の減少と高齢化、活動資金難、広報周知方法等の悩みは全く同じで、連絡会議を通して情報を共有し、より合理的で活発な活動を目指していこうというものです。

中でも、経鷲会は平成元年の創立で、年2回の会報発行とウェブサイトのアーカイブス、会員からの篤志による研究奨励金の授与等の事業は、学部学科同窓会のロールモデルともいえる存在になっており、先輩諸兄のご尽力の賜物であり大変光栄なことです。

実際のところ同窓会の中で定期的に会報を発行している団体は、数えるほどしかありません。経鷲会の会報エコノミアンも、役員のネットワークを駆使して原稿執筆を依頼していますが、なかなか予定通り集まりません。今回の会議で、英文科では年一回の発行に思い切って若手を募集したところチームが出来て、成功しつつあると聞きました。大変参考になります。

現在、経鷲会の主催行事は役員の趣味や得意分野を生かし、講師を招いた勉強会、美術鑑賞会、狂言・歌舞伎鑑賞、落語会、博物館見学、ゴルフコンペおよび柴又散策会等多岐にわたっています。そして今回の会議では、他学部でも散策会や音楽の夕べ、演芸会（浪曲等）を開催されていると聞きました。今後は、参加者の減少等を考慮すると、他の学部学科同窓会との共同企画、コラボを検討すべきではないかと思われます。加えて、効果的な周知方法の検討も必要があると考えられます。

今後の企画行事への皆様のご参加、ご支援を宜しくお願いします。

（副会長　三輪一夫）

吉澤石灰工業株式会社発破見学ツアーに参加して

大村正之（1999 年 経・営）

あたたかな陽光が降り注ぐ 2023 年 11 月 22 日ソフィアン先輩であられる吉澤石灰工業、会長吉澤慎太郎様（1972 年経済）のご厚意による「経鷲会吉澤石灰工業株式会社発破見学ツアー」へ家族で参加しました。

吉澤石灰工業株式会社は、151 年の長い歴史を持ち、葛生エリアの良質な石灰・苦灰石鉱区（埋蔵量 10 億トン以上、総面積 250 ヘクタール（東京ドーム 50 個強））を保有しています。

2021 年の石灰（ドロマイト）焼成品および焼成加工品の出荷量国内第 1 位（968,040 トン※石灰協会調べ）、トップシェア企業です。

栃木県葛生駅へ集合し、マイクロバスで駅から 20 分、吉澤石灰工業所有の三峰山鉱山へ。

まずは鉱石輸送の大型特殊車両、コマツの 60 トンダンプを見学し、その後、戦隊物のロケに出てきそうな、白い岩肌が美しい、鉱山の頂上へ車で移動し、佐野市を一望する見学展望台から、平日お昼の定時に行われる石灰石の発破を見学しました。

カウントダウンと警報サイレンの後、約 2 秒弱の体の芯まで届く発破音と共に、数十メートル煙が上がりました。初めての爆破見学体験は、子供も興味深く見学していました。

一回の発破で約 5 千トンの原石が掘り起こされ、加工しやすいサイズの原石となるよう、高度な技術力発破をされておられるとのこと。実際に、石灰石が手に取れる大きさ（数センチ～数十センチ）で地表に発破された石灰石が多数並んでいました。

その後、石灰加工工程の見学へ。全長 55 メートル、ロータリーキルン（円筒型加熱炉）で、石灰石・ドロマイトを、2 時間かけて、1,300℃以上の高温で加熱し、白い生石灰・軽焼ドロマイトに変化する工程を見学しました。加熱炉を横から見た際、炉から数メートル離れていても、近くに火があるかのような、熱さが伝わりました。

これまで、日常の生活の中で、石灰に触れる機会はあまりなく、小学校時代の校庭の線引きとして石灰を使っていたくらいしかイメージがありませんでしたが、吉澤会長のご説明で、石灰は、国内自給率 100 パーセントの、数少ない貴重資源であること。石灰の用途として、製鉄時の不純物を無くすための副原料、軟弱地盤を強化する土質改良剤、酸性土壌をアルカリ化する農業用肥料、水・灰・土壌中の重金属を除去する環境向け製品、として用いられていることを知りました。今回の見学ツアーに参加し、石灰が、社会の縁の下の力持ちで、社会を支える存在であることを、再認識しました。大人の学び直しの機会にもなる、大人の社会科見学ツアーとなりました。

ツアーの最後に、吉澤様が寄贈された、佐野市立吉澤記念美術館を見学し、伊藤若冲の菜蟲譜（さいちゅうふ）、野菜・果物等約 100 種、昆虫等約 60 種が、若冲により描かれたユーモラスな絵巻を拝見しました。吉澤様の、長きに亘り経済を支え、また文化を支える、企業メセナ、社会的責任活動を、美術館通じて感じることができました。

貴重な見学ツアーを実現いただいた、吉澤慎太郎様、経鷲会・三輪一夫様（1978 年経営）へ、心より感謝申し上げます。

（アムンディ・ジャパン株式会社　ディレクター）

巨大重機の前で

発破現場の展望台で（発破後の煙が映っています）

経鷲会会長就任のごあいさつ

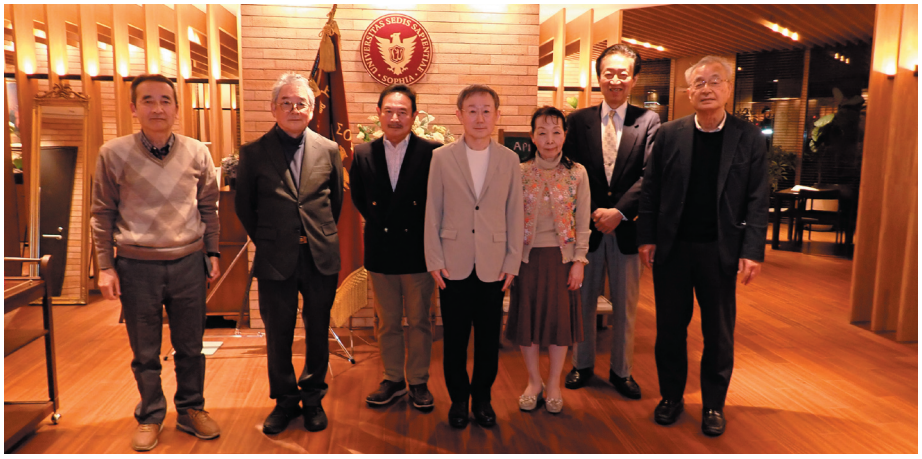
百井俊次（1981 年 経・営）

2024 年度より経鷲会会長に就任いたしました百井俊次（81 経営）です。私は、これまで経鷲会で監事として運営に携わってきました。また、ソフィア会では戸川会長のもと、財務委員長（2018 年 6 月～ 2020 年 5 月）を務めました。その財務委員長時代に、すべての学部に同窓会を発足させる予算措置が講じられたことがありました。当時は、ごく少数の学部にしか同窓会がなかったからです。しかし、すでに経済学部には長年活発に運営されてきた経鷲会という同窓会が存在していました。

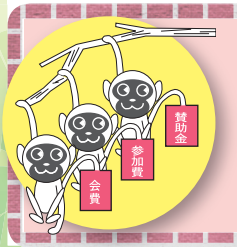
経鷲会は今年で 35 周年を迎えます。その歴史は、1988 年 10 月に開催された経済学部創立 75 周年祝賀会において設立が提案され、翌年 11 月に発足することから始まります。初代会長に伍堂光雄氏が就任されました。これまでの活動は、エコノミアンの発行や講演の企画、大学での講義、大学への寄付、研究奨励金授与、ゴルフコンペやワインに関するイベント、能や狂言・歌舞伎鑑賞会、女子部会の設置など多岐にわたります。そして、このような活動はソフィア経済人倶楽部（SBC）を発足させ、他学部の同窓会活動やソフィア会にも影響を与えています。活動を支えているのは、上智大学の教育精神である「For others with others」です。この精神こそが経鷲会の活動の根源であり、同時に次の世代にも継承していかなければならない最も大切なことであると思います。これまで活動を支えてこられたすべての先輩方に敬意を表します。

また、上智大学は今年で開校 111 周年を迎えます。母校のますますの発展のために、経鷲会はこれまで同様、学生への研究奨励金の授与をおこない、社会課題を解決しようと日夜勉学に励む学生を応援していきたいと考えています。会員の皆様には、年会費・寄付金の意義をご理解いただきまして、ますますのご支援・ご協力を賜りますと幸いです。

最後に、2023 年 11 月に開催されました第 34 回経鷲会総会も盛況のなか無事に終了しました。2024 年度の活動計画及び予算もご了解いただきましたことを報告させていただきます。これからも副会長：福田順子（68 経経）・戸川清（71 経経）・三輪一夫（78 経営）・前嶋浩文（83 経営）、監事：松本正一郎（78 経経）・桑原清幸（95 経経）、役員：清水進（71 経営）・大武宏至（78 経営）・西島敏夫（79 経営）・上村茂徳（90 経経）（敬称略）とともに経鷲会を盛り上げていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。なお、メール配信のほか、経鷲会ホームページや Facebook でも随時最新の情報を発信しています。そちらもぜひご覧ください。ミニ企画等もご案内していますので、皆様のご参加をお待ちしています。



中央が百井新会長



－年会費納入のお願い－

同封の「払込票」にて年会費 3,000 円の払込をお願い致します。あわせて、寄付金によるご支援・ご協力をお願い申し上げます。会費を納入頂いた方には、母校近辺の風景写真のはがきでお礼を申し上げております。転居による住所の変更やメールアドレスを変更された場合は、上智大学ソフィア会公式 Web サイト（https://www.sophiakai.gr.jp）の「住所・連絡先変更」から変更の手続きをお願いします。

2000年経営学科卒でニューヨーク在住の世界的に有名な松山智一さんの個展

田村　隆（1978年 経・経）

「松山智一展：雪月花のとき」が弘前れんが倉庫美術館で10月27日～2024年3月17日まで開催され、私は3月16日に見に行って参りました。

盛岡までは、晴天だったのに・・・（はやぶさ、早いぞ！）

生憎、弘前は雨でしたが、レンガ倉庫美術館、隣には素晴らしいカフェも併設されています。代表的な絵画シリーズの色鮮やかな作品が多数展示されており、弘前の個展では、新作9点を含む日本初公開の23作品を含む、絵画や彫刻など30件が展示されておりました。

東京の皆さんは、TVでも度々紹介されていた新宿東口駅前広場に置かれている巨大彫刻（花尾Hanao-San）をご覧になっていることでしょう。

アジア人として、NYで戦いながらここまで世界的なアーティストとなられた経鶯会の誇るべき会員の一人の松山さんの作品機会があったら、是非見てください。　（前 経鶯会会長）

今年のASFは「お金」をテーマに！

今年のASFは、5月26日（日）に開催されます。

7月に久しぶりに新札が発行されますので、経鶯会は『親子で学ぶ「お金」の知識』をテーマに、「お金の過去・現在・未来」を感じながら、楽しく、知的な展示・体験で参加します。

当日、展示される「レガシー･キャッシュ･レジスター」
（３台のうちの２台）

今年の目玉は、初期のキャッシュ･レジスター（3台）の展示です。日本NCRコマース（株）のご好意で展示が可能になりました。当時は車1台分の価値（価格）だったそうです。

他には、小学生～中学生を対象に、地域通貨「ソフィアンズ・マネー」のデザイン・制作に挑戦、お金クイズ、ミニライブラリー、過去・現在・未来を知る展示、等々で知識を習得、親子で楽しんでいただきます。小学生以上なら十分楽しめます。また、珍しいゲスト（突撃 カネオくん）も応援に駆けつけて下さる予定です。

是非、ご来場ください。　（副会長　福田順子）

エコノミアン編集雑記

『ソフィアの鷲 その⑪』

コロナ禍のため、しばらく行っていなかった、伝統芸能鑑賞会を5月に開催します。経鶯会メールニュースでご案内いたしましたとおり、国立能楽堂で「狂言の会」を鑑賞します。国立劇場が長期間の建て直し工事のため、以前に行っていた同劇場での歌舞伎鑑賞会は、当分の間見合わせますが、国立能楽堂は、国立劇場とは別の千駄ヶ谷にあるので、工事の影響なく公演を鑑賞できます。

理想的には、学生の方にもこの鑑賞会に参加してもらいたいところですが、自分の学生時代を顧みると、伝統芸能やクラシックコンサートなどには全く興味がなかったので、若い方に参加を促すことはちょっと難しいと考えています。

このような公演の客層は、やはり、中高年層が主体です。それは、齢を重ねると社会全体の中で価値のあるものが何であるのかがわかってくるからなのでしょう。しかも、鑑賞に際して教養がないと楽しめません。事前の勉強も必要です。オペラもそうですね。バレエもそうかもしれません。

今後も、経鶯会では、伝統芸能の鑑賞会を企画していきたいと思っております。オペラやバレエあるいは著名な楽団等の鑑賞会の実施はちょっとハードルガ高いですが、皆さんが参加しやすい芸能鑑賞会を企画しますので、お気軽にご参加ください。中高年主体となってしまいますが、教養のある同窓会の集まりと割り切って気にしないことにしましょう。

（編集担当　大武宏至（1978年経・営））